



TITLE:

カノープスを知る喜び

AUTHOR(S):

北村, 重雄

CITATION:

北村, 重雄. カノープスを知る喜び. 天界 1933, 13(143): 101-101

ISSUE DATE:

1933-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/162325>

RIGHT:

カノ丨プスを知る喜び

會員 北 村 重 雄

嚴冬二月の深夜南の地平低く懸る全天第二の一等星カノ丨プス、それは星を知つて以來の僕の大きな憧がれでした。駄目とは知り乍らも時には大屋根へまでも上つて、明るい電光にぼかされた大阪市内の南天を僕は幾度血眼で探し廻した事でせう。それが此の郊外に移り住む様になつて初めて念願の叶へられる日が來ました。それは實に一昨年の一二月二十一日の夜半でした。同志の中、田舎に居るお蔭で僕が第一番に彼を見付ける事の出來たのを感謝し乍ら冷い夜風の中に約一時間餘も立ちつくしてゐました。眞暗な氏神神社の境内です。だが憧れのカノ丨プスを見た喜びの前には氣味悪さなんか何でもありません。其の翌日僕は同志二人と野尻氏に早速その喜びを傳へました。其の文面は今でも全部覚えてゐます。

× × × × × ×

お喜び下さい。僕は憧れ久しいカノ丨プスに會ひました
それは昨夜列星の震へる様な燦きの下で、
人氣なき夜更けの神社の境内から、
僕は双眼鏡の視野の真中に、
はにかむ様に瞬く彼女の姿を見出しました。
僕は家へ走りました、引返す手には星圖をしつかりと、
そしてそれが紛れもなくカノ丨プスであると知つた時、
僕の心は感激で一杯でした。
取るものも取敵へず此の喜びを眞先にお傳へします。

× × × × × ×

其の年は其の後二回見ただけだつた。昨年は場所を更へて見たのでもう少し條件よく前後五回會へた。僕の経験では地平さへ晴れたらカノ丨プスはそんなに低くはないから熱心次第で直ぐ見つかると思ひます。最初はどうしても双眼鏡が要るでせう。今年も又カノ丨プスの見える二月となりました。だが僕は昨夜やつと一年振の挨拶をしたところです。諸君奮つて、カノ丨プスを見つけて下さい。そして大阪近郊からでも立派に見える事をたしかめて頂きたいと存じます。おゝ、カノ丨プスよ。讃へられてあれ！。（7.2.22）